

# 一般社団法人日本家政学会 家族関係学部会 ニュースレター

Council on Family Relations, Japan Society of Home Economics

2023 年度 第 2 号 2024. 2. 21 発行



編集 大石 美佳 (庶務担当)

発行 家族関係学部会事務局

\*\*\*\*\* INDEX \*\*\*\*\*

- |                       |                        |
|-----------------------|------------------------|
| ■ 部会長より               | ■ 庶務 (会員管理担当) より       |
| ■ 第 43 回家族関係学セミナー報告   | ■ 会計より                 |
| ■ 『家族関係学』編集委員会より      | ■ 湯沢雍彦先生を偲んで           |
| ■ 第 44 回家族関係学セミナーのご案内 | ■ 会員のメルマガを利用した情報発信について |

\*\*\*\*\*

★ ☆ ★ 部会長より ★ ☆ ★

李 環媛 (岡山大学)

過日の大震災に見舞われた皆様に心からお見舞い申し上げます。  
一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

2023 年 10 月 28 日～29 日に開催されました第 43 回家族関係学部会セミナーは、徳島文理大学にてハイブリット形式で行われ、多くの会員の皆様にご参加いただきました。セミナーでは、1 日目に「家族と地域のコミュニティの融和」というテーマでシンポジウムを開催し、基調講演と 3 つの報告、2 日目に会員による 8 本の自由報告がなされ、大変充実したセミナーを迎えることができました。1 日目の夜は、「情報交流会」を開催し、4 年ぶりに対面による交流会を持つこともできました。笑顔にあふれる皆様にお会いできて楽しい時間を過ごすことができました。大会実行委員長の岡部千鶴先生をはじめ、実行委員の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

第 44 回セミナーは、井上清美先生を実行委員長として東京家政学院大学にて、ハイブリット形式で行う予定です。開催日程は 10 月 26 日～27 日です。実行委員の先生方、どうぞよろしく願いいたします。多くの方のご参加をお待ちしています。部会誌『家族関係学』第 43 号は 2024 年 12 月に刊行予定です。投稿締切りは 2024 年 3 月 31 日です。皆様からのご投稿を期待しています。

日本家政学会第 76 回大会は 5 月 24 日～26 日に椙山女学院大学 (愛知県) で開催予定です。本学会も日本家政学会はじめ諸関連学会、団体とも連携しながら、引き続き、部会としての社会的役割と貢献について議論、探究し、その成果を発信していきたいと考えております。また、2023 年 12 月から日本家政学会と本学会のホームページに「家族関係学部会の紹介ムービー」をアップしています。ぜひご視聴いただきたいと思っております。非会員の方にもご紹介いただけると幸いです。よろしく願いいたします。

長年にわたり部会のためにご尽力くださった湯沢雍彦先生が 2023 年 9 月 8 日に永眠されました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

## ★ ★ ★ 第43回家族関係学セミナー報告 ★ ★ ★

岡部 千鶴 (第43回セミナー実行委員長/徳島文理大学)

第43回家族関係学セミナーは、2023年10月28日・29日に徳島文理大学を会場として、対面およびオンライン (Zoom) のハイブリット形式で開催いたしました。

第1日目は公開シンポジウム (共催：徳島文理大学) と総会、第2日目に自由報告を行いました。プログラム別の参加人数は、公開シンポジウム127名 (対面参加92名、オンライン参加35名)、自由報告45名 (対面参加26名、オンライン参加19名) でした。

第1日目の公開シンポジウムは、「家族と地域コミュニティの融和的未来」というテーマで、日本家政学会活動助成を得て開催されました。まず、基調講演では田口太郎氏 (徳島大学・教授) が“人口減少社会における「家族」と「地域」と題し、「人口減少＝地域の衰退」ではないという捉え方や、過疎高齢化により生活を支える住民自治が空白となっている地域でも、信頼できる外部人材 (その最たるは地域外からやってくる家族) との新たなネットワークにより、これまで同居・別居家族が担っていた生活サポートを、お互いさまの相互支援により賄うことができる可能性について、事例を交えながらご報告くださいました。続くパネルディスカッションでは、報告1として、木村直子氏 (鳴門教育大学・准教授) から“「子どもの居場所」が育む「家族」と「地域」と題し、「子どもの居場所」が求められる社会背景や徳島県の「子どもの居場所」の状況、地域における「子どもの居場所」機能と役割についてご報告くださいました。次に報告2として、草野裕作氏 (伊座利の未来を考える推進協議会・事務局) から“親子一緒に受け入れる伊座利流の漁村留学の取り組み”と題し、人口100人に満たない徳島県美波町伊座利地区において2000年に結成された「伊座利の未来を考える推進協議会」が行ってきた、「親子一緒に受け入れる漁村留学」の軌跡や、受け入れた子どもたちに対して、地域の大人たちは家族同様の扱いをしていることをご報告くださいました。最後に報告3として、寺奥敦子氏 (徳島文理大学・准教授) から“高校生と地域共生～ミニカフェ活動15年の実績”と題し、徳島県立小松島西高等学校食物科で、家族と地域住民を対象に取り組みされているミニカフェ活動について、活動がきっかけとなり、高校生が学校と家庭・地域をつなぐ役割を担っていることをご報告くださいました。それぞれのご報告内容を受けて、田口太郎氏コーディネートのもと、“家族と地域コミュニティの融和的未来”をテーマにパネルディスカッションが開催され、参加者からの質問と合わせて、終始活発な議論が交わされました。そして、人口減少が進む中で持続可能な社会を構築するためには、「家族」「地域」どちらの再生も必要であり、家族関係学の立場を含めた議論を今後さらに深めていく必要があることが再認識されました。

第2日目の自由報告は、対面参加での報告が5報、オンライン参加での報告が3報、計8報告がありました。座長には、井上清美氏 (東京家政学院大学) と蟹江教子氏 (宇都宮共和大学) にお世話になりました。それぞれ活発な質疑があり、有意義な時間となりました。

公開シンポジウム終了後にアンケートをグーグルフォームにてお願いしたところ、22名の参加者の方よりご意見や感想をお寄せいただき、ハイブリット開催の利点に対するご意見や、実行委員会への温かいお言葉も頂きました。皆さまのご協力を賜り、大きなトラブルも無く無事終了することができました。心よりお礼を申し上げます。

第43回家族関係学セミナー実行委員会： 岡部千鶴・坂本有芳・木村直子・  
小野瀬裕子・中岡泰子・池添純子

## ★ ★ ★ 『家族関係学』編集委員会より ★ ★ ★

表 真美 (編集委員長/京都女子大学)

### ○ 『家族関係学』43号への投稿論文の募集

『家族関係学』No.43への投稿原稿を募集いたします。多くの会員のみなさまから力作が寄せられますことを期待しています。

40号から、投稿はメールのみの受付となり、投稿規程、執筆要項も改訂されています。HPをご確認ください。原稿には、本部会ホームページからダウンロードした「投稿申込表紙」を添えて、MSWord形式およびPDF形式のファイル両方を、編集委員会(下記アドレス)宛にメール添付で送付してください。ご投稿をお待ちしています。 メール投稿締切期日：2024年3月31日(日) 23:59

編集委員会 E-mail edit★kazokukankeigaku.jp (★を@に置き換えてください)

### ○ 書評・文献紹介の対象となる図書情報の募集

書評・文献紹介の対象となるご著書等の情報を、ぜひお知らせください。2023年5月1日から2024年4月30日までの間に刊行され、部会員が執筆に関わったすべての文献を対象とします。自薦、他薦いずれも歓迎します。

編集委員会書評・文献紹介担当まで、1冊、献本をお願いします。もしくは、書誌情報【著者名・編者名、書名、発行年月日、発行所、税込価格、ISBN、執筆部会員名】をE-mailでご連絡いただければ幸いです。なお、ページ数に限りがあるために、すべての著作を取り上げることはできませんのでご了承ください。締め切りは、2024年5月1日(水)とします。

〈書評・文献紹介担当〉

〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1 茨城大学教育学部 佐藤裕紀子 宛

Tel: 029-228-8281 Fax: 同左

編集委員会 E-mail: edit★kazokukankeigaku.jp ★を@に置き換えてください

## ★ ★ ★ 第44回家族関係学セミナーのご案内 ★ ★ ★

井上 清美 (第44回セミナー実行委員長/東京家政学院大学)

第44回家族関係学セミナーは、東京家政学院大学千代田三番町キャンパスにて開催します。参加及び自由報告申し込み方法、セミナー詳細についてのご案内は5月を予定しております。現時点では、対面とオンラインを併用した形での開催を目指して準備を進めております。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

日程：2024年10月26日(土)～27日(日)

会場：東京家政学院大学 千代田三番町キャンパス

〒102-8341 東京都千代田区三番町22

アクセス：市ヶ谷駅 (JR 中央線・総武線、東京メトロ有楽町線、東京メトロ南北線、都営地下鉄新宿線) 下車、徒歩約8分

半蔵門駅 (東京メトロ半蔵門線) 下車、徒歩約8分

九段下駅 (東京メトロ東西線、都営地下鉄新宿線) 下車、徒歩約12分

★ ★ ★ 庶務(会員管理担当)より ★ ★ ★

山下 美紀 (庶務/ノートルダム清心女子大学)

- ご住所・ご所属の変更、入退会のご希望については、下記までご連絡ください。
- 2017年度から学生会員の年会費が減額されております。会員区分に変動があった場合（たとえば学生会員から正会員へ）は、お手数ですが、下記までご連絡くださいますようお願い申し上げます。
- 情報提供のお願い

メールアドレス不明： 遠藤 マツエ・川村 千恵子・田中 弓子・松尾 敏之 (敬称略)

住所不明： 駒井彩

※連絡先の情報をお持ちの方はご連絡ください。

- バックナンバーの購入について

『家族関係学』の在庫は、30号(9冊)、31号(8冊)、32号(9冊)、33号(6冊)、34号(10冊)、35号(10冊)、36号(5冊)、37号(31冊) 38号(21冊) 39号(53冊) 40号(43冊) 41号(50冊)です。1冊2,000円で購入できます。購入希望の方は、下記の連絡先までお知らせください。ご所属の図書館等の蔵書としてもお買い求めいただきますようお願いいたします。

なお、『家族関係学』の在庫の保管・販売は2017年7月から、ヨシミ工産株式会社東京事務所に業務委託しています。購入希望者の方には、ヨシミ工産株式会社より郵送されます。

連絡先：ノートルダム清心女子大学 山下美紀

〒700-8516 岡山市北区伊福町2-16-9 Tel : 086-252-2142 Fax : 086-252-5145

E-mail: inquiry★kazokukankeigaku.jp (家族関係学部会事務局) ★を@に置き換えてください

★ ★ ★ 会計より ★ ★ ★

森田 美佐 (会計/高知大学)

2023年度および過年度の年会費未納の方は、**2月28日(水)までに**年会費を振り込んでください。会計の都合上、期日厳守をお願いいたします。また、学生会員の年会費が2017年度より減額となっております(正会員5,000円、学生会員2,000円)。学生会員として年会費を振り込む場合は、必ず学生証の写しを下記までお送りください。郵送でもPDFや画像で送っていただいても構いません。

2024年度に学生会員として入金を希望される方については、提出期限や提出方法など、今後のニューズレターでご案内いたしますので、そちらをご確認ください。なお、学生会員の場合は2年分の会費を前納することはできません。

ご不明の点がございましたら、下記までご連絡ください。

年会費振り込み先：(郵便振替) 00310-6-30229 家族関係学部会

連絡先：高知大学 森田 美佐 〒780-8520 高知市曙町2-5-1

Tel : 088-844-8421 E-mail : inquiry★kazokukankeigaku.jp (家族関係学部会事務局)

★を@に置き換えてください

## ■■■ 湯沢雍彦先生を偲んで ■■■

臼井 和恵 (相模女子大学名誉教授)

荻窪駅近くの先生の職場であるルーム Y に、お茶の水女子大学家政学部家庭経営学科一期生の教え子が集まり、先生を囲んで歌い語り、お食事やティータイムをともにした。2019年8月25日先生89歳のお誕生日にも集まり、ルーム Y の扉の前で「また！」と見送ってくださったのが、先生との今生の別れになってしまった。コロナ禍で再会が果たせなかったのだ。1930年生まれで卒寿も過ぎた先生、いつかはこの時がと思わないではなかったが、やはりしみじみさみしい。

恩師湯沢雍彦先生は、2023年9月8日、ご自宅にて満93歳の人生をやすらかに閉じられた。

先生は、現在の新宿駅東口中村屋本店のすぐうしろの自宅にて誕生。東京都立大学で社会学と法学(学士入学)を学ばれた後、東京家庭裁判所調査官や最高裁判所家庭局家庭科学調査室での家事事件統計の整備などに12年間携わった、家族問題の実務家である。統計の原資料を重視した先生の地道な研究の在り方は、調査官時代からの筋金入りだったのであろう。「家庭裁判所の実務こそ期限のない私の大学院だ」「現実問題の解決に少しでも役立つ研究をしたい」と先生は語っておられる。

1967年2月、先生はお茶の水女子大学の家政学部の新設される家庭経営学科の第三講座、その名も家族関係学講座の担当者として、カリキュラム編成をするべく就任された。先生が『家族関係学』の教科書を書き上げられたのが、1968年11月とはしがきにあるので、如何に意気込み、集中して執筆されたかは、想像に難くない。初版発行時、先生は38歳でいらした。研究室で執筆中の先生の周りには、何とも言えない気魄と真剣さが漂っていたのを思い出す。先生が家族関係学部会の生みの親となられたことも、必然と言える。著書『家族関係学』の中で、先生はこう述べられている。

幸いにして既存の枠に限定されない新分野においてこそ、家族の総合的分析理解はなされるのであり、そのためにもっとも有効に機能するものでありたいと願うのが、私の考える「家族関係学」なのである。

新分野の家族関係学、若い研究者のとりくむべき課題は、無限に広がっている！と熱を帯び話される、若き湯沢先生の面白い授業がよみがえってくる。入念な授業準備をされての毎回の授業だった。

先生の膨大な業績の中で、今後も光を放ち続ける労作として、貴重な文献の資料集と整理復刻を挙げたい。第一にドメス出版の『日本婦人問題資料集』第五巻『家族制度』の担当・解説である。800頁を越える大著で、4年間を要されたという。続くクレス出版の基礎文献復刻のお仕事も尊い。

学生時代に史学科を選ぼうかと思われたという歴史好きの先生、明治・大正・昭和・平成にわたる家族・家庭生活に関する連作も目を見張るものがある。その一部を記す。

明治期 『明治の結婚 明治の離婚 家庭内ジェンダーの原点』 『百年前の家庭生活』

大正期 『大正期の家族問題 自由と抑圧に生きた人びと』 『大正期の家庭生活』

昭和期 『昭和前期の家族問題 1926 - 45年、格差・病・戦争と闘った人びと』

『昭和後期の家族問題 1945 - 88年、混乱・新生・動揺のなかで』

平成期 『データで読む平成期の家族問題 四半世紀で昭和とどう変わったか』

平成25年間にみる日本の新しい「家族」のかたち』

少子化による日本の人口減少が大問題になっているが、先生はデンマークでの調査をもとに、その著『少子化をのりこえたデンマーク』で、20年以上も前に既に警鐘を鳴らしておられる。

先生は、男女共同参画社会づくりの功績により、2005年に内閣総理大臣賞を受賞された。先生は、ご自身の夫婦関係においても男女共同参画を实践された方であった。長年にわたりご夫妻で作成された「ぬいぐるみカレンダー」は、その象徴でもある。お話の語り手の名手であり講師でもあるその妻の活躍を、嬉しそうにいつも話された先生。先生の祝賀会は、ご夫妻揃ってが多かった。

先生、お孫さんが企画された偲ぶ会の名は「家族関係学者の家族」でしたよ。

湯沢雍彦先生、お幸せな一生でしたね。 長くお教えいただいたわたしたちも幸せでした。

ほんとうにありがとうございました。また！

★ ☆ ★ 会員のメルマガを利用した情報発信について ★ ☆ ★

大石 美佳 (庶務/鎌倉女子大学)

家族関係学部にいかかわる活動で、会員間の相互交流や研究活動の発展に資する情報の配信を希望する方は、下記の要領で、事務局メールアドレスまで情報をお寄せ下さい。なお、発信内容が不適切であると役員会が判断した場合、情報が掲載されないこともあります。

<メルマガ配信依頼について>

【依頼先】 inquiry★kazokukankeigaku.jp (★を@に置き換えてください)

【メールの件名】メルマガ配信依頼

【配信内容】メール本文に①～④の内容を記載してください。

①情報のタイトル(「〇〇のご案内」など)

②配信内容(概ね600文字以内)

③主催者

④問合せ先

\*配信できるのはテキストデータのみです。ファイルを添付することはできませんので、ウェブサイトへのリンク等でご対応ください。

【メルマガ配信予定】年4回(5月・7月・9月・10～12月)

☼++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++☼

<家族関係学部会事務局>

〒700-8516 岡山市北区伊福町2-16-9

ノートルダム清心女子大学 山下美紀

Tel : 086-252-2142 Fax : 086-252-5145

E-mail : inquiry★kazokukankeigaku.jp (家族関係学部会事務局)

メルマガ配信アドレス : info★kazokukankeigaku.jp ★を@に置き換えてください

家族関係学部会ホームページのURL : <http://kazokukankeigaku.jp>

☼++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++☼